

返ヘリシカ」ト云フ演題ノ下ニロンドン市ニ於ケル最大會場ナル「アルバー
トホール」テ講演セントシ非常ナル前氣ヲ喚起サセシ七十五歳ノ一男子
ガ凡テ其講演ノ準備ノ整頓セル前夜ニ突然トシテ急死セルコソ笑止ナレ。
彼ガ本年初頭ウヰーン行キテ企テ十一週間ニシテ頗ル若返ツテ歸英シ、且
ツ彼ハ、手術後彼ヲ看護セル三十五歳ノ一看護婦ト結婚準備中ナリト言ヘ
リ。而シテ彼ハ既ニ地方ニ於テ一回之ニ就テ講演セルガ、其後全國内ノ實
業家ヨリ彼ニ對シテ其經驗ニ關シ質問ノ來ルコト雨ノ如ク、遂ニ彼ヲシテ
ロンドンニ出テ、其實驗ヨリ得タル幸福ヲ世界ニ示サントセシムルニ至リ
タルモノニシテ、此講演ヘノ入場切符ハ羽ヲ帯ビシ如ク飛ンテ賣レ行キ、
單ニ一般市民ノミナラズ之ニ就テ科學的興味ヲ有スル醫師及科學者モ亦競
フテ之ヲ求メタリ。然ルニ豈圖ランヤ若返リ者ハ其講演日ノ朝彼ノ寢臺上
ニ頓死セルヲ發見セラレテ萬事休シヌ。彼ヲ診察セル醫師ハ其死因ヲ狭心
症ニ歸セリ、蓋シ一箇月以前ニ彼ハ彼力如何ニ強健ナルヲ示サンガ爲ニ
自ラ左胸ヲ叩キテ僂人ニ誇リシニ其後該部ニ疼痛アリトテ此醫師ノ診察ヲ
受ケシコトアリシト。此死者ノ一從兄弟ハ彼ガウヰーンヨリ歸リシ時ハ以
前ヨリ餘程若ク見エシコトヲ證シ、且ツ彼ハ其手術料トシテスタイナツハ
教授ニ七千圓支拂ヒタル旨ヲ語レリト。尙ホ彼ハ死亡前一記者ニ語リテ曰
ク「余ハスタイナツハ教授ニ此手術ノ效果ハ何年連續ス可キヤヲ質セルニ
教授ハ笑ヒ乍ラ答ヘテ「二十年乃至三十年」ト。即チ余ハ教授ニ「然ラバ私
ハ只今七十歳ナレバ、百歳ニナツタ時ニハモ一度手術ヲ御願ヒ致シマス、
ソースレバ多分百五十歳迄ハ生キルデシヨウ」ト申シ置ケリ」ト。

(田中抄)

雜報

●會員動靜

敘勳四等授瑞寶章

從六位勳五等

重富 貫二

(六月二十七日)

敘正五位

從五位

藤田 秀太郎

敘正六位

從六位勳四等

漆原 亮平

敘正六位

從六位勳五等

藤掛 三郎

敘正六位

從六位勳四等

片山 雄

敘正六位

從六位勳四等

武部 元雄

敘從六位

正七位

森本 末吉

敘從六位

正七位

野田 諦俊

敘從六位

從六位勳五等

松原 愛次郎

敘從六位

正七位勳六等

守山 貞二

敘從六位

正七位勳五等

藤河 喜人

免本官專任福岡縣技師

防疫官兼福岡縣技師

高畑 運太

賜二級俸

岡山醫學專門學校教授 舟岡英之助

岡山醫學專門學校教授 八木田 九一郎

岡山醫學專門學校教授 寬 繁

岡山醫學專門學校教授 田 中文男

岡山醫學專門學校教授 田 村 於 兔

岡山醫學專門學校教授 荒木蒼太郎

岡山醫學專門學校教授 齋藤精一郎

岡山醫學專門學校教授 加藤 誠 治

六級俸下賜

(六月三十日)

岡山醫學專門學校教授 荒木蒼太郎

岡山醫學專門學校教授 齋藤精一郎

岡山醫學專門學校教授 加藤 誠 治

岡山醫學專門學校教授 八木田 九一郎

勅任官ヲ以テ待遇セラル

佐世保海軍病院部員海軍軍醫大尉 藤田秀三郎

免本職補野間軍醫長

五七〇

舞鶴海兵團附海軍軍醫中尉 大岩博雅

免本職補舞鶴海軍病院部員

海軍軍醫少佐 江木健三

補舞鶴防備隊軍醫長分隊長

臨時南洋群島防備隊附海軍軍醫大尉 栗栖幸穂

免本職補淀軍醫長

(七月一日)

年俸貳千圓下賜

鐵道醫 岡島 壽

名古屋鐵道治療所醫員ヲ命ス

(七月四日)

從三位勳二等 荒木寅三郎

教育評議會委員被仰付

(七月九日)

九級俸下賜

警察醫 伊藤顯太郎

二級俸下賜

朝鮮總督府道慈惠醫院醫官 奈良真三郎

朝鮮總督府道慈惠醫院醫官 三谷盛國

(六月三十日)

●正誤
 本年五月三十一日發行本會雜誌、會員敘任及辭令中、村上敬二君ノ
 論功行賞ニ瑞四等トアルハ旭日小授章ノ誤

級	勳等	賜金	陸軍官等位勳功	氏名
功級	四(年金)	八〇〇	陸軍官等位勳功	氏名
	旭日小	八〇〇	三等軍醫正正六位勳四等功五級	上山喜明
級	勳等	賜金	陸軍官等位勳功	氏名
	瑞五等	一、四〇〇	陸軍官等位勳功	藤河喜人
級	勳等	賜金	陸軍官等位勳功	氏名
	瑞五等	五〇〇	一等軍醫正七位勳六等	南川義一
級	勳等	賜金	陸軍官等位勳功	氏名
	瑞五等	五五〇	三等軍醫正從六位	簡野松太郎
級	勳等	賜金	陸軍官等位勳功	氏名
	瑞六等	四〇〇	二等軍醫從七位	中川俊一
級	勳等	賜金	陸軍官等位勳功	氏名
	瑞六等	三〇〇	二等軍醫從七位	越智五七
級	勳等	賜金	陸軍官等位勳功	氏名
	旭日小授章	一、二五〇	三等軍醫正八位	須之内權三
級	勳等	賜金	陸軍官等位勳功	氏名
	旭六等	三〇〇	一等軍醫正六位勳四等	丹羽浩
級	勳等	賜金	陸軍官等位勳功	氏名
	旭六等	六五〇	二等軍醫從七位	藏本貢
級	勳等	賜金	陸軍官等位勳功	氏名
	旭六等	七〇〇	二等軍醫從七位	伊賀久家
級	勳等	賜金	陸軍官等位勳功	氏名
	旭六等	七〇〇	一等軍醫從七位	山中茂

(大正九年十一月一日)

○岸一太君 は陸軍省囑託臨時原料鐵研究委員としての功勞を録せられ今回勳四等に叙し旭日小授章を授けられ一時金千五百圓を下賜せられたり

○徳岡英君 豫て京都帝國大學醫學部産婦人科教室に於て研究中なりし同君は今般本縣都窪郡倉敷町倉敷病院産婦人科部長として就任せられたり

○上田慶一郎君 は今般慶應大學醫學部病院婦人科に勤務せられたり

○佐藤義敏君 は今般縣立島根病院内科に勤務せられたり

○小川庄三君 豫て岡山醫學專門學校附屬醫院産婦人科に勤務し居られしか今回其職を辭し當市東田町村田醫院に於て診療に従事せられたり

○田淵清君 大正四年岡山醫學專門學校卒業以來徳島市古川病院に勤務し居られしか今般同院を辭し同市中通町三丁目に於て開業せられたり

○栗田櫻桃丸君 明治四十三年以來高知市武田病院耳鼻咽喉科部長として勤務し居られしか今般同院を辭し同市帶屋町に於て開業せられたり

○渡邊善朝君は豫て大分縣立病院内科に勤務し居られしか今同院を辭し大分市外横田村に於て開業せられたり

相馬又二郎君逝く 元東京帝國大學醫學部教授相馬又二郎君は相州平塚の別荘にて宿痾療養中なりしか醫藥其效を奏せず遂に去十三日同地に於て逝去せられたり葬儀は本月十六日青山齋場に於て執行せられたりと君未だ春秋に富めるの身を以て空しく逝かる洵に痛惜の情に堪へざるなり

服部稔君逝く 君は明治二十六年第三高等學校醫學部を卒業し郷里に於て開業し二十八年福岡縣嘉穂郡古河鑛業所醫局に轉し今日に至りしか今回病を以て遠逝せられたりと洵に哀悼に堪へざるなり

●學位授與決定 中川小四郎君は豫て東北帝國大學醫學部に論文を提出し學位を請求し居られしか去月二十五日

教授會に於て論文審査の結果學位授與の決定ありたり其主論文題及畧歴は左の如し

主論文

麻醉藥ニ關スル一新研究

君は明治四十二年千葉醫學專門學校を卒業し東京帝國大學外科、新潟醫學專門學校第二部外科等に勤務し大正三年獨逸國に留學し歐洲戰亂の爲め英國に轉學し大正五年歸朝し直ちに東北帝國大學醫學部に勤務し大正九年二月關山醫學專門學校外科學講師となり同七月同校教授に進み以て今日に至る

●科學研究費補助者 豫て文部省に於て本年度科學研究費補助分配に付詮衡中なりしか愈去月二十八日發表したり其内本會會員に屬すものは左の如し

本邦人食物ノ榮養價

生物學ノ電氣的研究

匏形二口蟲病ノ治療ニ關スル研究

種々ノ藥劑及毒素ノ聽神經ニ及ホス

影響ニ就テノ實驗的研究

寄生性吸蟲類ノ研究

島園 順次郎君

上坂 熊勝君

匏 繁君

田中 文男君

桂田 富士郎君

長谷川 恒治君

横田 豊治君